

ツェリエ (Celje)

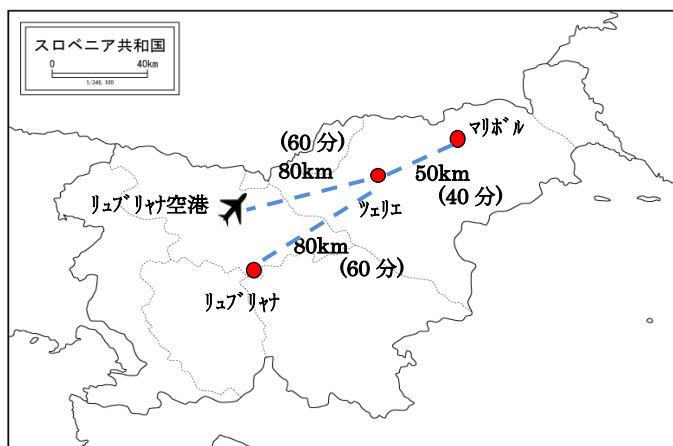
平成28年8月
在スロベニア日本国大使館

～ツェリエの見どころ～

- スロベニア第三の都市
- 街を見下ろす中世の古城「ツェリエ城」
- 古代ローマの痕跡が残る「ヘラクレス神殿跡」、「ローマ時代遺跡群」
- 郊外に佇む「日本庭園」



ツェリエの街並み



1. 基本情報

(1) アクセス

- 首都リュブリャナから約80km: 車で約60分
バス(リュブリャナ駅発)で約1時間30分
1日10便運行
電車(リュブリャナ駅発)で
- リュブリャナ(ヨジェ・プチニク)空港から
約80km: 車で約60分
- マリボルから約50km: 車で約40分

(2) 統計

- ・人口: 49, 077名(2015年12月現在)
- ・主要産業: 食品、製紙、化学、金属、機械産業
- ・平均総月収: 1, 506ユーロ
(約18万円、2015年)
- (全国平均: 1, 555ユーロ)
- ・失業率: 16. 1%(全国平均は12. 3%)

2. 概要

(1) 地勢

首都リュブリャナの北東部に位置する、スロベニア第3の都市。市内を流れるサヴィニャ(Savinja)川とボグライナ(Voglajna)川の交わる狭い谷の平地に発展した街。

(2) 歴史

●ツェリエは、ローマ帝国クラディウス帝の時代に「ツェレイア」という名で繁栄した、現スロベニア領の中では最大規模の古代ローマ都市であった。その後14世紀には、神聖ローマ帝国皇帝ルードヴィヒ4世により、ツェリエ伯領が創設され、以後115年間にわたり、ツェリエ伯家がこの地を治めた。

●15世紀にツェリエ伯家が断絶すると、ツェリエはオーストリアのハプスブルグ家に継承された。現在でも市内には、この時代(15～16世紀初頭)に建設された市庁舎(現ツェリエ博物館)や城壁が残っている。

●19世紀になると、ウィーン〜トリエステ間を走るオーストリア南部鉄道が街に敷設された。その結果、近郊の農村の都市化が進み、街に吸収されていった。また、19世紀末から20世紀初めにかけて、ツェリエは反スロベニア・ドイツ愛国運動の中心地でもあった。1910年の調査では、ツェリエ市の人口の半分以上を占める66.8%をドイツ人が占めており、ドイツ愛国運動の象徴として「ドイツ文化センター(ドイツ語: Deutsches Haus)」が1907年に建設された。この建物が現在の「ツェリエホール(スロベニア語: Celjski dom)」である。

●第二次大戦が始まると、ツェリエはナチス・ドイツに占領された。戦中、ドイツ軍の重要な通信ラインと軍事施設があったため、街は連合軍側から激しい空爆を受けた。終戦後、ユーゴスラビア・パルチザン軍により、街からドイツ軍が追放されたが、彼らに協力したと嫌疑をかけられたスロベニア人、クロアチア人、セルビア人、ドイツ系市民が何の司法手続きもなしに処刑され、ツェリエ市郊外の集団墓地に密かに埋葬された。その数は8万人以上にのぼると言われているが、正確な人数はわかっていない。

3. 見どころ

①ツェリエ城 (Celjski Stari grad)

●13世紀に建設され、14世紀にこの地を治めたツェリエ伯(スロベニア国旗に描かれている模様は、同伯が使用していた紋章)の居城として使用されていた。ツェリエ伯家の断絶後、ハプスブルグ家によってツェリエ周辺地域の防衛の拠点として利用されていたが、17世紀以降その役割がなくなると廃墟となった。

●今日では、改修が進み一般公開もされており、高さ407mの丘に建つ城からツェリエの街を眺めることができる。



②ツェリエ博物館 (Pokrajinski muzej Celje)

●15世紀末〜16世紀初めに建設され、当時はハプスブルグ帝国の州庁として使用されていた。第二次大戦後、ツェリエと周辺地域の総合博物館となった。

●博物館の展示以外にも、館内メインホールの天井装飾はこの地方に伝わる伝統的な手法で描かれただまし絵になっており、見応えがある。

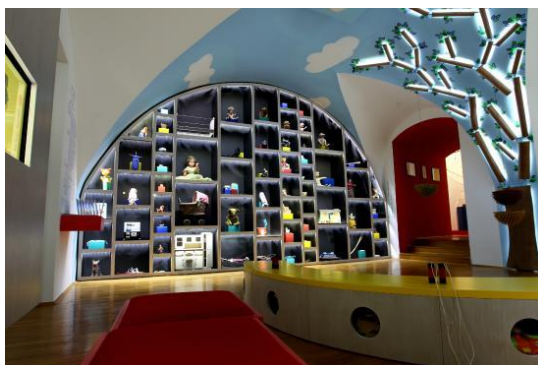


© 2016 Pokrajinski muzej Celje

③ツェリエ子ども博物館

(Children's Museum Herman's Den)

●ツェリエ現代史博物館内に併設されている、スロベニアで唯一の子ども博物館。2011年、浜田世界こども博物館(島根県浜田市)と協力して展覧会を実施した。



© 2016 TripAdvisor

④水の塔 (Vodni Stolp)

1451年に物見櫓(やぐら)として建てられた塔。16世紀に再建されている。塔の近くには同年代に築かれた城壁の跡も残る。2010年にツェリエの地域文化財に認定された。



©Wikipedia

⑤ツェリエ・ホール (Celjski Dom)

●1907年、ツェリエにおけるドイツ愛国運動の象徴として建てられた。建設当時は、「ドイツ文化センター(ドイツ語:Deutsches Haus)」という名で、ツェリエに住むドイツ人のコミュニティセンターとしての役割をはたしていた。また、この建物は、市内西側に位置するスロベニア人コミュニティセンターである「ツェリエ国立ホール(Narodni Dom)」と対抗させる意図もあった。

●第一次大戦終戦後の1919年、ユーゴスラビア王国政府がホールをドイツ人コミュニティから没収し、名前も現在の「ツェリエ・ホール」に改名した。しかし、第二次大戦が勃発すると再びドイツ人コミュニティの手に渡り、ホールは以前の様式に戻ったが、終戦後ドイツ軍が撤退すると再び「ツェリエ・ホール」に改名された。

●現在、ツェリエ・ホール内には街の観光案内所が設けられ、建物自体も街のシンボルとなっている。



©Wikipedia

⑥ツェリエ国民ホール(Narodni Dom)

現ツェリエ市役所。1896年に建設された。建物内には4つのホールがあり、コンサート等のイベントや市議会が開かれる。また、1906年から図書館も併設されており、市民に無料で図書の貸し出しを行っている。



⑦ヘラクレス神殿跡 (Heraklejev Tempelj)

2世紀頃のローマ時代に、神々への信仰の象徴として建てられた神殿跡。また、この遺跡のある一帯は、鉄器時代(紀元前1500年頃)から人々が定住していたとされる場所でもある。



©1996-2016 WOWOW INC

4. 周辺情報

(1)ローマ時代遺跡群 (Rimska nekropola)

●ツェリエから西12kmに位置する、約2000年前のローマ時代の遺跡群。1952年、近隣の果樹園の労働者が作業中に偶然、座った姿の女性像を発見したことから遺跡の調査が開始された。その結果、600点以上の出土品と100以上にもなる一族の墓が発見された。これは、スロベ

ニア及び中央ヨーロッパで最も重要な遺跡群の一つとされている。



©2009 Tourist Association Šempeter

●また、この遺跡群の東にはローマ時代の街道が約9mにわたり残されている。当時、この街道はアクイレア(現イタリア領)～エモナ(現リュブリャナ)～ツェレイア(現ツェリエ)～ポエトヴィオ(現プトウイ)を結ぶものだった。



©2009 Tourist Association Šempeter

●この遺跡群とローマ街道は、現在野外博物館として一般公開されている。(2016年8月現在 大人6ユーロ)

(2) 日本庭園～モズリエの森 (Mozirski Gaj)～

●「モズリエの森」は、ツェリエから北西に30 kmのモズリエ(Mozirje)市にあるフラワーパークである。園内には、5つのテーマに沿った庭園があり、そのうちの1つに日本庭園がある。

●日本庭園は、2008年にモズリエの森30周年記念事業として造園された。庭園の広さは約1000㎡あり、枯山水(石庭)や、池にかかる太鼓橋がある。

●この日本庭園の他に「ハーブガーデン」、「ハニーガーデン」、「岩の庭園」、「伝統的なスロベニアの庭園」がある。



©2009-2012 Ves pravice pridrane